

少女雑誌の部屋から

明治35年に日本で初めての少女雑誌『少女界』が誕生して以来、様々な読み物が掲載されました。そのうちに少女小説と呼ばれるジャンルが生まれると、次々と作品が発表されるようになります。執筆陣の中には名だたる作家以外に、少女雑誌への投稿がきっかけとなってデビューを果たした方たちもたくさんいらっしゃいます。今回取り上げる雑誌『少女世界』でも、いくつもの才能が発掘されました。初めて自分の作品が活字となって本誌に掲載された時の喜びはいかばかりだったでしょう。

少女世界

富国出版社・少女世界社

学習参考書などを発行していた富国出版社が創刊した少女雑誌。

当初、集団就職で、昼は工場で働き、夜は学校へ通う少女も多かった。その働く少女たちの応援を明言していた雑誌である。

夜間の授業を終えて寝るまでの束の間の休息時間に読んで少しでも疲労を忘れられるように、世界の名作や少女小説などの面白い読み物や記事を盛りだくさんに掲載した。

表紙絵は佐藤春樹、山本サダらが描いた。

創刊 1948年11月号
終刊 1953年7月号

津村節子、瀬戸内寂聴は本誌で少女小説を発表し、デビューを果たしている。

少女世界が生み出した二大作家

つむら せつこ
津村 節子 1928—

福井県出身。学習院短期大学卒。在学中から『少女世界』ほか少女雑誌に本名 北原節子の名で小説を発表する。昭和28年吉村昭と結婚。

昭和40年「玩具」で芥川賞。平成2年「流星雨」で女流文学賞。平成10年「智恵子飛ぶ」で芸術選奨文部大臣賞。平成15年、長年にわたる作家としての業績で恩賜賞・日本芸術院賞受賞。同年芸術院会員となる。

平成23年「異郷」で川端康成文学賞、「紅梅」で菊池寛賞。著書に「海鳴」「重い歳月」「幸福村」「黒い潮」「遍路みち」など多数。

夫婦のありようや女性の心理をえがく作品が多い。

せとうち じゃくちよう
瀬戸内 寂聴 1922—2021

徳島県出身。徳島高等女学校時代に三谷から瀬戸内に改姓。本名は晴美。

東京女子大卒。学生結婚し、昭和25年に離婚。

三谷晴美のペンネームで『少女世界』に送った少女小説「青い花」が昭和25年12月号に掲載され、作家としての人生を歩み始めた。（“三谷晴美”は三島由紀夫からの提案でつけられた筆名）

昭和36年「田村俊子」で田村俊子賞、昭和38年「夏の終り」で女流文学賞受賞。

昭和48年平泉・中尊寺で得度、法名寂聴となる。平成10年現代語訳「源氏物語」を刊行。平成18年文化勲章受賞。平成23年「風景」で泉鏡花文学賞。

主な参考文献：『the 寂聴 第9号 少女小説の時代』（角川文芸出版）

ふろく
いろいろ

昭和24年5月号ふろく
「世界音楽物語」表紙／高島華宵



昭和25年1月号ふろく
「少女世界スタイルブック」表紙／佐藤春樹



昭和26年5月号ふろく
「フォスター名曲集」表紙／鈴木悦郎



昭和27年3月号ふろく
「金の雛びょうぶ」絵／糸賀君子